

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
発達支援Kitos羽村		2025年 12月 25日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		▶やや狭いことが落ち着けている時もある。リソースルームなども設置されている。	▶運動の活動では狭さを感じるが、引き続き、室内の使い方を工夫しながら取り組んでいく。 ▶引き続き、利用児の特性や状態に合わせながら臨機応変に室内のレイアウトを変えながら活動に取り組んでいく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		▶ゆとりを持ってこどもと接することができる。 ▶刺激にならず支援に入れるように、日によって配置人数を変えるなどの配慮をしている。	▶引き続き、利用児のその日の状態や活動の目的に合わせながら、利用児と職員のバランスを調整しながら配置していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		▶必要に応じてパーテーションで仕切りをしたり、集団や個別、運動を行う場所が分かれている。 ▶見通しが持てるような配慮をしている。	▶引き続き利用児が活動に参加しやすいよう、パーテーションの使用や絵カードなど視覚的に捉えやすい環境設定や情報伝達を取り入れながら進めていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		▶自由遊び中も、マットやパーテーションで区切っている。	▶引き続き、利用児が心地よく過ごせるよう清潔を保ちながら取り組んでいく。 ▶活動については、引き続き利用児一人ひとりに合った環境や取り組みを提供していけるよう、話し合いながら進めていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		▶大きな部屋でも仕切りなどを使い、落ち着けられるスペースを作っている。 ▶1人で過ごすことができるように工夫している（マットで個室を作り1人になれるスペースを作っている。また、すぐに他児とも関われるように工夫しているなど）	▶引き続き、利用児の状態や希望に合わせながら個別のスペース等を使っていけるよう進める。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		▶アフターやミーティングなどで行っている。 ▶情報を必ず職員で共有している。	▶引き続き、業務改善に向けて取り組んでいく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		▶把握をし、出来ることは改善し、出来ないことにはできない理由理由を伝えている。 ▶保護者との面談などから出た意向に配慮しながら、課題を設定するための話し合いができています。	▶引き続き、保護者の方との意思疎通を日頃から図りながら意向等を把握し、業務改善に繋げていけるよう取り組んでいく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		▶支援の方法を話し合うことがいづちできている。	▶引き続き、お互いに意見を伝え合える環境を作り、チームとして取り組んでいけるよう進めていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		▶評価ではないが、専門職の方から見た意見を聞く機会がある。 ▶外部講師にアドバイスを頂いている。	▶第三者機関による外部評価は行っていないが、外部講師の訪問が毎月あるため、引き続き 3 専門職より評価や助言を受けながら取り組んでいく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		▶専門職の方に、月 1 回来て頂いているのは、大きな学びである。 ▶心理、ST、OT のアドバイスを受けている。 ▶支援に必要な研修に参加できるよう、事業所全体で協力的である（例えば、職員体制など）。	▶引き続き、経験年数に合わせながら研修に参加していけるよう取り組んでいく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		▶ホームページに公表されている。	▶ホームページに公表しているが、気づいていない保護者もいるため、周知に努めていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		▶1人ひとりに合わせたプログラムを作成しているのは、Kitosの強みである。	▶引き続き、現在使用しているアセスメントツール等を使用しながら、保護者のニーズと併せて子どもの状態像や課題点を分析しつつ支援計画を作成していく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		▶情報共有が密に行われている。	▶引き続き、支援に携わる職員全員で話し合いながら進めていく。
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		▶日ごろから話し合いを通して共有をし、方向性がぶれないよう進められている。	▶引き続き、支援計画に基づきながら、支援に携わる職員全員で話し合いながら進めていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		▶外部講師監修の下でフォーマルなアセスメントを使用し、その他インフォーマルなアセスメントを定期的に使用しながら子どもの状態像を把握し、支援に活かしている。	▶引き続きアセスメントツールを使用しながら、利用児の状態像を把握し、支援に活かしていけるよう取り組んでいく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		▶適切に設定されている。	▶引き続き、ガイドラインに沿いながら具体的に設定していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		▶特にあつまり（グループ活動）は、全員で話し合い決めている。 ▶相談できていて、とてもやりやすい。 ▶定期的にプログラムの振り返りを行っている。	▶引き続き、支援に携わっている職員全員で話し合いながら取り組んでいく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		▶達成した内容は、見直したり、個々によって同じ内容でもレベル変えている。 ▶相談できていて、とてもやりやすい。 ▶振り返りを定期的に行っている。それ以外の時にも、どう工夫したらいいのか話し合える環境にある。	▶引き続き、利用児の発達レベルや状態に合わせてながらプログラムの設定を行っている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		▶利用児に合わせてながら個別と集団の活動を組み合わせ計画が作成されている。	▶引き続き、個別と集団活動を組み合わせながら支援計画を作成し、個々の利用児の必要とされているスキルにつなげていけるよう取り組んでいく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		▶毎回打ち合わせがきちんとされていて、職員の動き、留意するべきことを確認できていると思う。 ▶プレミーティングやアフターミーティングが必ずある。 ▶必ず行っている。	▶引き続き、チームとして連携していけるよう取り組んでいく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		▶共有すべき点、次回への改善をその都度行うことで積み重ねができていていると感じる。 ▶プレミーティングやアフターミーティングが必ずある。 ▶必ず行っている。	▶引き続き、チームとして連携していけるよう取り組んでいく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善に	○		▶毎日、グループ、個別、運動の記録を全ての子どもで取って	▶引き続き、記録を取ることも支援の一つとして捉え、支援に活か

関係機関や保護者との連携		つなげているか。	○		おり、支援の見直しや改善につなげている。	していけるよう取り組んでいく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		▶モニタリングの時期に合わせながら行っている。また、日々の支援の中でも振り返り、見直しを行いながら進めている。	▶引き続き、左記の内容で取り組んでいく。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		▶児童発達支援管理責任者や、必要に応じて現場職員が参加している。	▶引き続き、左記の内容で取り組んでいく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		▶地域の保健センターや、障害福祉、保育などの関係機関と連携をしながら進めている。	▶引き続き、地域の機関と関係を築いていくよう努めながら取り組んでいく。
	26	併利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		▶利用児が通う通園先などをメインにしながら取り組んでいる。	▶引き続き、連携を通しながら情報共有や相互理解に努めていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		▶就学支援シートを活用している。	▶引き続き、左記の取り組みを行ないながら進めていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
保護者への説明等	31	(31は、事業所のみ回答)	○		▶外部講師のアドバイスを受ける機会がある。 ▶ST、OT、心理のアドバイスを受けている。 ▶スーパーバイス、助言はとても勉強になる。 ▶センター自体が地域に無いが、施設で外部講師（心理・OT・ST）の訪問が毎月あるため、これら専門職から毎回助言等を受けている。	▶引き続き、外部講師による助言・指導を受けながら取り組んでいく。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイスや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		▶ウィンターウィークの園庭あそびで、触れる機会がある。 ▶12月に戸外活動があり、保育園や公園に遊びに行くチャンスはある。ただ、滞在時間が短いため、交流はできたり、できなかったりである。 ▶利用日以外は保育所などに通園している子どもがほとんどである。	▶利用児のほとんどが保育園等に通っているため、通園先に託している状態であるが、12月は外活動を設定しており、散歩や園庭遊び、公園遊びを通して、地域住民の方や地域のお子さんとの関わる機会を作れるよう努めている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		▶毎回、保護者と対面で話す時間を設けており、双方で情報共有しながら進めている。	▶引き続き、左記の内容で取り組んでいく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		▶研修のお知らせ（市など）の貼り出しを行っている。 ▶報告の時に、直接話した際に、アドバイスなどをしている。 ▶ペアトレなどの研修は行っていないが、日々の保護者との対面で話す時間を使用しながら、特性に応じた対応方法を伝えながら進めている。 ▶行政や他の機関が行っている外部研修の情報なども掲示しながら伝えている。	▶引き続き、左記の内容で取り組んでいく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		▶契約時に行っている。	▶引き続き、分かりやすい説明を行なっていけるよう進める。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		▶初回面談時の聞き取りや、契約前の書面での聞き取り、定期的に行われる面談、日々の報告などの機会を使いながら確認している。	▶引き続き、保護者の方の意向を確認しつつ、意向と利用児の画像との調整やバランスを取りつつ進めていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		▶対面で確認しながら行っている。	▶引き続き、分かりやすい説明、具体的な説明となるよう進めていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		▶電話、メール、対面（報告時間や面談等）などを通しながら行っている。	▶引き続き、保護者の方への必要な助言を行なっていけるよう取り組む。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		▶きょうだい同士での交流する機会はむずかしいが、保護者同士で交流する機会は設けている。 ▶月1回の合同報告で、父母の交流を設けている。 ▶報告の際に、「合同報告」として保護者間の交流をもつ時間を作っている。 ▶月1回合同報告で交流している。 ▶月1回の合同報告の時、保護者との交流を設けている。 ▶保護者会などは、保護者の負担を考えて開催していないが、毎月1回、クラスの保護者が集まって交流する機会を設けられるよう配慮している	▶頻回ではないが今後も保護者の方同士が交流できる機会を設け、交流を促進していけるよう取り組んでいく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		▶相談や申し入れはいつでも行うことを適宜知らせている。また、相談等があった場合は、相談内容に応じて、子どもの担当職員が受けたり、児童発達支援管理責任者が受けたりなど、すぐに対応が行えるようにしている。対面だけではなく、電話、メールなどでも受け付けながら対応している。	▶引き続き、保護者の方に周知しつつ、迅速かつ適切に対応していけるよう取り組んでいく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		▶定期的な通信等は発行していないが、必要なお知らせは書面を通してながら伝えている。	▶引き続き、左記の内容で進めていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		▶個人ファイル、電話内容、掲示物など、個人情報が増えないよう管理している。	▶引き続き、個人情報の取り扱いに気をつけながら進めていく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		▶わかりやすく動画で報告したり、翻訳アプリを使用したりしている。	▶引き続き、利用児と保護者の方に向けて、意思の疎通や情報伝達が適切に行なわれるよう取り組んでいく。
					▶行事をすることがないため招待はむずかしいが、地域等の保育所	▶施設の隣や前に住んでいる住民の方々とは声を掛け合ったりする

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	<p>等関係の方の見学等、積極的に受けている。</p> <p>▶地域住民を招くような大きな行事は無いが、近隣住民と良好な関係を保てるよう声を掛けるなどは行っている。</p> <p>▶施設の建物自体が、外から見えるような建物となっているため、何をやっているのかなどを地域住民が関心を寄せられるような状態となっている。</p> <p>▶外から室内が見えるため、地域の保育園の園児や保育士、小学生などが、お散歩の時間帯や登下校の時間帯などに利用児に手を振ってくれるなどもある。</p>	などを行なっているため、引き続き、地域の方々と良好な関係を築きながら事業運営を行なっていけるよう進める。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	<p>▶今年度から、契約時に全てのマニュアルを保護者に配布している。</p> <p>▶職員会議の中で、マニュアルの内容を確認し、訓練も実施している。</p>	▶保護者の方によって、知っている方と知らない方に差があるため周知に努めていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	▶年2回、想定内容を変えながら、避難訓練を実施している。	▶引き続き、左記の取り組みを行なっていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	▶保護者からの聞き取り、お薬手帳等を通しながら確認している。	▶引き続き、左記の取り組みを行なっていく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	<p>▶医師の指示書から保護者が決めた内容を把握し、おやつを提供している。</p> <p>▶医師の指示書が出るほどのアレルギーを持っている子どもが現在現在いないが、おやつのある時間があるため、必ず一人一人の保護者からアレルギーの確認を行ない、必要な対応を取っている。</p>	▶引き続き、左記の取り組みを行ないながら進めていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	▶会議の中で確認し、支援に活かしている。	▶引き続き、安全管理に努めながら進めていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	▶事業所内では確認しながら進められているが、保護者への周知までは行き届いていない。	▶保護者の方への周知がまだ行き届いていないため、周知に努めていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	▶アフター内で記録を取っている。	▶引き続き、左記の取り組みを行ないながら、再発防止に向けて取り組んでいく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	▶年1回、会議の中で研修機会を設け、行っている。	▶引き続き、左記の内容で取り組みを行ない、職員の対応力や支援の質の向上に努めていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	▶身体拘束を行うまでの子どもは現在居ないが、虐待防止研修の中で、どのような手順を取るのかなど確認が行えている。	▶引き続き、身体拘束の3原則ややむを得ず行なう場合の手続きなどを会議等で確認しながら、適切に対応を進めていく。